

所属・資格 哲学科・教授

申請者氏名 合田 秀行

| | | |
|---|--|---|
| 研究課題 | | 東洋思想における身体観・修行論の比較研究 |
| 報告の概要 | 研究目的 および 研究概要 | 申請者は、今年度の6月に本学部で開催される比較思想学会第四十五回学術大会において、大会実行委員長を務めることが正式に決まっております、無事に終えることができました。全体テーマも東西思想における身体論とすることが、理事会で承認されておりました。基調講演と同テーマに基づくシンポジウムを企画することになり、シンポジストもしくは司会進行役を担当することも決まっております、学会誌への投稿も前提となっておりました。成果は下記の通り。このような事情も踏まえ、申請者がこれまで研究を進めてきた仏教、とりわけインドの初期瑜伽行派（唯識思想）を中心として、その他の東洋思想に見られる身体観や修行論との比較検討を研究目的と設定することにしました。 |
| | 研究の結果 | 瑜伽行派において、とりわけ初期に属する『瑜伽師地論』『声聞地』では、従来、それほど関心を持たれなかった身体に関わる記述に着目した。食事と睡眠のあり方が瑜伽（修行）の質に関わること、当時の身体に関わる多様な情報を考慮していたことを確認した。続いて、身体に関わる所縁（冥想の対象）の一端を取り上げた。そこでは「生きている身体」という最も身近な対象、さらに誰しにも訪れる「死後の変化から白骨と化す身体」という対象によって、無常観を徹底させ、貪行の断滅を目指す行道の階梯が築き上げられる点を解説した。さらに阿那波那念という生物にとって不可欠な呼吸を調べていくことによって尋伺を抑止し、集中度を高めるだけでなく、身心を一体化して基本的教理を体解していく修慧の地平を確認した。玉城康四郎師が提唱した全人格的思惟論を概観し、瑜伽行派の身体論でも取り上げた阿那波那念（入出息念定）と同派の大成者である無著の思想史的位置付けを巡る見解も紹介しつつ、その特徴を論じてきた。また、その過程で身体とも不可分とも言い得る阿頼耶識の性格付けも試みた。今後とも身体やホリスティックな視点を重視する分野において、玉城師の全人格的思惟論の試みに関心が寄せられるであろうことを付言しておく。 |
| | 研究の考察・反省 | 本研究は、今後とも考察一層深めていく予定である。結果の一部については、以下に記したように、「科学における意識の問題への現象学的・唯識思想的アプローチとその現代的課題について」という大正大学学術助成研究会においても報告し、多角的な指摘を受けた。今後への展開の参考にしたい。脳科学の成果は目覚ましいものが認められるが、瞑想状態における脳の活動の状況を記述的には解明しているものの、なぜそのような働きをもたらすのか本質的な解明には至っていない。脳科学の成果を踏まえつつも、思想的には比較研究の視点を重視していきたい。 |
| 研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所 | ※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。 比較思想学会第45回大会、「初期瑜伽行派の身体論と全人格的思惟論」、2018年6月17日/日本大学文理学部 | |
| 研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者 | 大正大学学術助成研究会、「仏教における瞑想とマインドフルネス瞑想～唯識研究の立場から～」、2019年3月16日、大正大学 「トランスパーソナル心理学と東洋思想」、日本トランスパーソナル心理学/精神医学会二十周年記念論文集『スピリチュアリティ研究の到達点と展開』所収、2019年1月23日、コスモス・ライブラリー 「初期瑜伽行派の身体論と全人格的思惟」、『比較思想研究』44号所収、2019年3月31日（発行予定、校了）、比較思想学会 | |